

子宮頸がんワクチン

子宮がんは子宮頸がんと子宮体がんの2種類があります。20-30代の女性では一番多いがんです（子宮頸がんは30代がピーク、体がんは50代で肥満型に多い）。日本では1日約10人が子宮頸がんによって亡くなっており、検査で早く見つけることができればほとんど治せます。

この子宮頸がんの原因はHPV（ヒトパピローマウイルス）です。100種類以上あるうち、子宮頸がんの原因となるのは15種類ほどです。これを「発がん性HPV」と言います。発がん性HPVは日常的な性交渉で感染します。日本人を対象とした調査では、性交経験のある女性の10%において、子宮腔部の細胞にウイルスが検出され、性交経験のない女性には発見されませんでした。特に性活動の活発な10代の若年者には50-70%に検出されます。若者あるいはセックスパートナーが多いほど、多種類のタイプに感染しています。男性では、陰茎や尿道上皮に存在し、夫婦間での感染が成立します。HPVに感染しても2年以内に90%が子宮頸部から消失します。HPV陽性であっても、ただちにがんへ進展することはありませんが、持続感染や繰り返し感染はハイリスクになります。

最近、HPVの感染を防御することによって子宮頸がんを予防しようとワクチンが日本にも導入されました。HPVの中で16型、18型の2種類は、その他のHPVに比べて子宮頸がんになりやすいのです。

この2つの感染を防ぐことでがんを予防するのです。このワクチンは海外では100ヶ国以上で接種されています。HPV感染予防ワクチンの効果を最大限に引き出すには、性交開始前に投与することが望ましく、多くの国では10代前半を優先接種しています。ワクチンを多くの人が受ければ集団免疫効果が得られ、将来的に地域からHPVが消える可能性もあります。

しかし、大事なことは検診とワクチンの両者をうまく活用することです。

予防ワクチンのスケジュール

- ・半年間に3回接種します
- ・初回、1ヶ月後、6ヶ月後の3回です
- ・1回15,000円です
- ・副反応は、注射した部分が腫れたり、痛むことがありますですが数日間で治まります

※現時点では、残念ながら日本では自費扱いとなります
※市町村では負担金を出すところもあります。

女性のための漢方薬

- ・冷える、片頭痛、しもやけ：当帰四逆加呉茱萸生薑湯とうきしぎやくかごしゆゆしょうきょうとう
- ・腰から下が冷える：苓姜朮甘湯りょうきょうじゆつかんとう
- ・精神的な要素(緊急など)で手足が急に冷えてかじかむ：四逆散しぎやくさん
- ・月経不順、月経痛：桂枝茯苓丸、当帰芍薬散、桃核承気湯けいしぶくりょうがん とうきしやくやくさん とうかくじょうきとう
- ・不妊：当帰芍薬散とうきしやくやくさん
- ・イライラする：抑肝散よくかんさん
- ・便秘：大黃甘草湯だいおうかんぞうとう
- ・皮膚が乾燥してカサカサ：温清飲うんせいいん

大人の方も診察いたします。気楽に御相談下さい。

小児夜間急病センター当番日

2月27日（土）

場所：岐阜市民病院

時間：19:30-22:30（受付）